

企画展

堂本印象の非具象絵画

かたち

あら

～象を徴わす～



霜素不空 1965年

2001・11/27(火) ▶ 2002・3/10(日)

休館日：毎週月曜日（ただし休日の場合はその翌日が休館）
年末年始（12月28日（金）～1月4日（金））

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料：一般 500(400)円・高大生 400(320)円・小中生 200(160)円
（ ）内は、20名以上の団体料金

特別行事：◆列品解説 1月20日（日）午後2時から 2階展示室

京都府立 堂本印象美術館

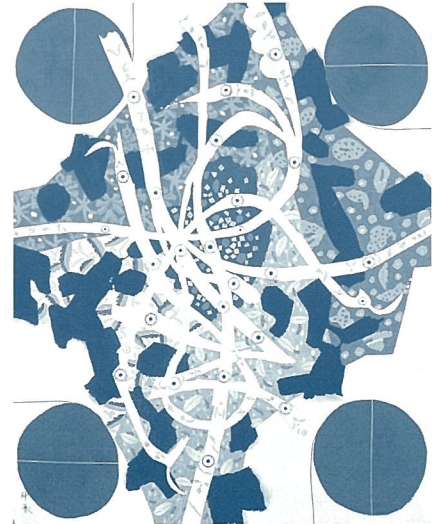
立命館大学正門前

〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3 TEL.075-463-0007

<http://www2.ocn.ne.jp/~domoto>



生起 1963年



情の解縛 1966年

企画展

堂本印象の非具象絵画

かたち あら

～象を徴わす～

2001・11/27(火) ▶ 2002・3/10(日)

“非具象”とは“具象”に対する言葉ですが、そもそも芸術における“具象”は、20世紀の西欧で自然や現実を再現描写しない芸術が現れ、これを抽象芸術と呼んだ事に対抗し、従来の再現的な表現を一括りにするため用いられる様になった言葉です。一方、抽象、つまり外的、対象的な世界を描写しない芸術表現は、ほかに非具象、非再現、絶対などとも呼ばれます。

昭和30年頃から堂本印象は、日本画としては類を見ない、非具象的な絵画を続々と発表し始め、世間を驚愕させることとなります。そればかりではなく、目まぐるしく表現方法や対象を変貌させた従前の作品と同様に様々な試みを取り入れることをも躊躇いませんでした。

「日本画は一見形象をもって表現しますが、この形象が常に作者の心を物語るものでなければなりません。心を表現するために形象を借りて自然物なり対象物なりの姿を通して筆者がその精神を伝えるのであります(堂本印象『看心有道』昭和12年)。」

様々な表現によりあらゆる対象を描き続けて来た印象が、今度は色と形象だけによりその精神を示そうとしたのです。一見不可解なそれらの作品群も、具象、非具象の概念を離れ、より象徴的なものとしてとらえて見ると、作者の心により近付けるのではないのでしょうか。西欧で生まれた非具象絵画という手法を採りながらも、印象は、自らを培って来た有形無形の日本的なものを蔑ろにしたわけではなかったからです。



久遠発酵 1964年



解脱眼 1967年

入館料：一般500円・高大生400円・小中生200円

(20名以上の団体は2割引)

休館日：毎週月曜日(ただし休日の場合はその翌日が休館)

年末年始(12月28日(金)～1月4日(金))

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

特別行事：列品解説 1月20日(日) 午後2時から 2階展示室

京都府立 堂本印象美術館

立命館大学正門前

〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3 TEL.075-463-0007

<http://www.2ocn.ne.jp/~domoto>

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料：一般500(400)円

高大生400(320)円

小中生200(160)円 ()内は、20名以上の団体料金

●交通機関

JR京都駅より市バス60、JRバス(立命館大学前経由)、阪急電車烏丸駅より市バス125号、京阪電車三条駅より市バス1245号、JR町駅より市バス15にて、いずれも「立命館大学前」下車。

